

横浜はじめて物語

■関口輝雄

連載

②スーパーファイター327

横浜市が全国に先駆け導入した、耐熱救助車を紹介します。

この車両は平成四年度に製作し、現在、神奈川県消防署菅田消防出張所に配置されています。

耐熱救助車はその名の通り、震災時に火災が延焼拡大し、さらに倒壊した建物などが障害になり普通の消防車では進入不可能な地域や、石油コンビナート火災などの高熱や有毒ガスの発生により、消防隊員が接近困難な災害の鎮圧、救助活動を目的に製作しました。

愛称を「スーパーファイター327」と言い、いかなる災害にもひるまぬ闘志や力強さで、横浜市民三二七万人(当時)を守るという意味で命名しました。

ベースシャーシはメルセデスベンツ社製の不整地走行トラックを使用し、様々な特殊装備を施したボディを製作しまし

た。

それではこの自慢の性能を少し詳しく紹介します。

○コンバットタイヤ

岩場でも走行できる強固なタイヤですが、万一破損しても内側に鋼製ワイヤで補強されたソリッドラバータイヤを持つ二重タイヤとなっています。

○ミッション関係

パートタイム四輪駆動、四輪デフロック機能付、ホイールリダクション、登坂能力四五度、前進八段、後進八段……段々訳が分からなくなります。

実際に、後進でも時速六〇キロぐらいで走れます。

○車体構造

多少の落下物にも耐えるようボディ全体を六ミリ圧延鋼板で頑丈に作り、内部をガラスウールやセラミッククロスの断熱材で覆いました。

さらに放射熱から車両を保護

するため十七か所に自衛噴霧口を設け、車体を冷却しながら走行できるので、約六〇〇度の放射熱まで耐えられます。

○気密性

有毒ガスが立ちこめる場所での活動を考慮し、また、耐熱性との関連で、車内の気密性を高めてあり、さらに床下に装備した空気ポンベから空気を車内に放出し、外気圧より内部圧力が少し高くなるように自動的に調整する機構としました。

これで外部からガス等が車内に侵入するのを防ぎます。

車ですので一応窓はついています。もちろん開きませんが、エアコンもあります。申請程度です。このため夏場は動くサウナ室と化し、隊員は車内の暑さに耐える「耐熱車」となりま

△その他特殊装備▽

○後方部隊の送水を受けて、毎分三〇〇リットルの放水が可能な放水砲を屋根上に装備しています。

○災害現場の外気温度を確認できる温度測定器および可燃性ガスや二十種類の有毒ガスを測定できるガス検知器を装備

○車体の前部に幅二四〇〇ミリ、重さ五四〇キロのドーザー(排土板)を装備しており、障害物を押しつけながら進めます。

幸いなことに、この車両が大活躍をするような災害は、いままでありませんでした。

この先も「スーパーファイター327」がいつまでも「控え」でいられることを望んでいます。

△消防局施設課車両係長▽

